

定例記者会見発言録

日 時：令和元年7月3日（水）14：00～14：40
場 所：伊達市役所本庁舎東棟4階 401会議室・402会議室
出 席：市長、副市長、総務部長、市長直轄理事、財務部長、市民生活部長、
産業部長
報道機関：福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社

市 長：別紙資料により説明

- 資料1 移住・定住推進のまち 伊達市 《事業説明》
- 資料2 歴史観光と体験型観光の両輪で魅力向上 《事業説明》
- 資料3 新規高卒者向け地元企業説明会の開催
- 資料4 桃のトップセールス 北海道・東京で伊達市産農産物をPR
- 資料5 企業内マルシェに伊達市産品PRブースを出店
- 資料6 ふるさとティーチャリングプロジェクト事業
- 資料7 7月・8月の主な催し

《質疑応答》-----

歴史観光と体験型観光の両輪で魅力向上 関連

記 者：「伊達氏梁川城遺跡群」が国史跡指定に向けて答申されましたが、今後どのようにPRしていくのか。また、その周辺にある「堂庭遺跡」も国史跡指定となるよう進めていきたいとのことでしたが、どのような状況なのでしょう。

市 長：国史跡に指定されることで、文化庁の補助等がいただけるようになるので、それを活用し整備していきたいと考えています。歴史的にも古く、武家としては珍しく京文化を取り入れた本丸庭園となります。他にはない特徴がありますので、そこを守りながら、多くの皆さんに見てもらえる方法を検討していく考えです。

記 者：「堂庭遺跡」についてはどうでしょうか。

総務部長：梁川八幡神社のある「堂庭遺跡」については、一緒に指定とはなりませんでしたが、「梁川城遺跡群」のなかに「堂庭遺跡」が追加指定となる方向で進んでいます。

記 者：補助を使って梁川城跡を整備していくということでしたが、史跡公園などを再整備していくということでしょうか。

総務部長：文化財に指定されると、保存管理計画を立てることになります。それができれば国庫補助の対象になりますので、まずは今後の計画を立てて、その後国庫補助を活用しながら、史跡の見える化を図っていくということになります。

記 者：観光客の増加に向けて、具体的な目標値などを設定しているのでしょうか。

市 長：まだ数値的なものは決めておりません。全国的にもインバウンド（訪日外国人旅行）が多くなっています。伊達市においてはインバウンドが少ないという現状ですので、インバウンドへの取り組みとしてアニメも活用していきたいと

考えています。

新規高卒者向け地元企業説明会 関連

記者： 地元の若者が地元企業に就職する機会として、とても良い取り組みだとおもいます。今回は新規高卒者向けということですが、大卒者向け説明会の開催の計画はあるのでしょうか。

産業部長： 今回は、ハローワーク福島との共催ですので、管内の高校生を対象としています。大学生向けの説明会については、いまのところ予定しておりません。